

令和 3 年 6 月 9 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K01052

研究課題名(和文) ハワイを中核とした中部太平洋海域における日系水産業の歴史的研究

研究課題名(英文) The historical study of the Japanese fishing industry in the central Pacific, focusing on Hawaii

研究代表者

小川 真和子 (OGAWA, Manako)

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：60443610

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、20世紀前半におけるハワイの日系水産業の歴史的展開について、20世紀初頭から1920年代、日米関係が悪化する1930年代から開戦、そして開戦時から終戦、冷戦初期にかけての、それぞれの時期について、日系水産業者が出身地である日本、ホスト側であるハワイ準州政財界やアメリカ連邦政府、議会、大統領府と、どのような関係を築きながら事業の拡大を図ったのかという点の解明を目指した。そして1920年代以降、ハワイ準州政府と日系水産業者が協調関係を築いていたこと、さらにハワイ準州と日系水産業者が日本人の排斥を推進する連邦政府や軍部と対立しつつ、一貫して産業の発展を目指していたことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究代表者が行った研究成果の一部は、一般向け単行本(『海をめぐる対話 ハワイと日本』2019年)をはじめ、共著書や学術論文にまとめて公刊、もしくは公刊予定である。

さらに本研究代表者は山口大学山口学研究センター主催「人の移動が創る世界」(2019年)への登壇を通して、山口県から海外への移民史に関心を持つ研究者のみならず、そのテーマに関心を持つ市民や行政関係者へ情報提供を行った。また研究成果の一部を和歌山県主催の和歌山県人会世界大会(2019年)に提供するなど、研究成果を学術界のみならず、広く一般社会へ還元した。

研究成果の概要(英文)：This research attempted to reveal the historical process of the Japanese fishing industry in Hawaii from the turn of the twentieth century to the early Cold War period. In particular, this research has revealed the fact that Hawaii and Washington had developed opposite attitudes toward Japanese fishing for decades. The political and business leaders of Hawaii promoted exchanges with Japan based on highly pragmatic concerns for the expansion of its local fishing industry and feeding the island population, which was at risk of possible isolation and starvation during emergencies. In sharp contrast, the US military and the White House in Washington interpreted Hawaiian waters exclusively in the context of national security with a prejudiced view of Japanese fisherfolk as enemy agents; the wartime suppression of Japanese fishing operations was the result of such concerns.

Part of this research has been published as a monograph and academic essays.

研究分野：ハワイ日系水産史

キーワード：ハワイ史 日米関係史 水産史

## 1. 研究開始当初の背景

本研究を開始するにあたって、ハワイにおける日本人移民研究が砂糖キビプランテーションなどの農業従事者の研究中心であったことから、ハワイにおける水産業と日本人移民について実証的に解明することを目指した。

具体的には、20世紀前半におけるハワイの日系水産業の歴史的展開について、3期に分けて実証的に検証した。ハワイにおいて近代的な水産業が確立する20世紀初頭から1920年代、日米関係が悪化する中でハワイの日系水産業が最盛期を迎える1930年代から開戦、そして開戦時から終戦、冷戦初期にかけての、それぞれの時期について、日系水産業者が出身地である日本、ホスト側であるハワイ準州政財界やアメリカ連邦政府、議会、大統領府と、どのような関係を築きながら事業の拡大を図ったのかという観点から論じた。そして本研究はハワイの漁村というローカルな視点を出発点に、アメリカ連邦政府というナショナルな立場、そしてハワイを中部太平洋海域の中に位置づけた上で、太平洋における漁業利権をめぐる向き合う海洋国家日本とアメリカの関係という、グローバルな視点から考察した。

## 2. 研究の目的

本研究の主要な目的の一つは、ハワイにおける水産業の発達の過程を、日本との関連性において読み解くことである。ハワイの水産業は日本と深く関わりながら発展してきた。漁撈や水産物流通、加工現場における日系人の独占といった人的側面のみならず、日本からの漁具、漁撈や造船技術の導入、真珠貝養殖技術の移入といった技術的交流、そして日本から持ち込んだ魚介類の放流事業など多方面に及んだ。さらに戦後、アメリカが日本の南洋の漁業利権を手に入れると、ハワイの日系水産業界がこの地(海)域への進出を試みるなど、海を巡る日本とハワイの関係はより重層化する。本研究では、これらの複雑に入り組んだ日本とハワイの関係についての実証的に解明した。

また本研究におけるもう一つの目的は、ハワイの日系水産業と地元白人政財界との関係の検証である。戦間期のハワイにおける政財界指導者は「太平洋の十字路」としての自意識のもと誕生したPan Pacific Unionは、日本の海洋生物学者の招聘など水産業振興に大きく寄与した経緯を持つ。さらにハワイ準州政府や議会、ハワイの白人財界は日本人漁業の保護育成に努めた。このような動きは、戦前、排日運動が激化し、排日法案の導入によって日系漁業を厳しく制限したアメリカ本土西海岸諸州と対照的である。そこで本研究はハワイの特徴とも言うべき日系水産業者と地元政財界との協調関係の背景について明らかにした。

## 3. 研究の方法

本研究は、第三期に分けて行った。まず第一期はハワイにおいて近代的な水産業が確立する20世紀初頭から1920年代にかけての時期を中心に扱った。ハワイへの漁民送り出し地、山口県沖家室島で発行された青年会誌(『かむろ』(1914-40年))や自治体編纂の移民史(『和歌山県移民史』、『広島県移住史』)などに記載されたハワイとの通信記録や、ハワイ州立公文書館、米国立公文書館の所蔵資料の収集、分析を通して、日系水産業者と準州水産関連部局との交渉の詳細や、準州に協力した連邦商務省漁業局の政策について考察した。またハワイ大学ハミルトン図書館所蔵のPan Pacific Unionコレクションの資料の分析から、同組織を中心としたハワイ政財界と日本の水産業界との関係の深化の過程についても具体的に論証した。

続いて第二期としては、日米関係が悪化する中でハワイの日系水産業が最盛期を迎える1930年代から開戦までの時期を中心に扱った。この時期に日系漁船の操業に対して圧力を高めた軍部や大統領府と、それに対抗したハワイの日系水産業界と準州政財界、連邦政府商務省及び内務省魚類及び野生生物局(1938年以降)の動きについて、米国立公文書館所蔵資料や、ハワイの年次報告書『日布時事布哇年鑑』(1928-41)、日本語新聞『日布時事』の水産関係の記述などの一次資料を主に用いて解明した。さらに当時盛んに行われた日本の真珠貝養殖技術や魚介類のハワイへの導入事業の詳細については、ハワイ州立公文書館所蔵の準州農林行政委員会関連資料の収集と分析を通して考察した。

第三期の研究として、日米が開戦した1941年から終戦、そして冷戦初期にかけて扱った。ハワイを戒厳令下に置き、日系漁民の強制収容と漁船の没収によって漁業を逼塞させた軍政部と、それに抵抗し、漁業の速やかな復旧復興を求めた準州政府の動きについて、ハワイ大学ハミルトン図書館所蔵のハワイ戦時記録、及び米国立公文書館所蔵のハワイ軍政部関連資料の分析から考察した。さらに戦後における中部太平洋の漁業調査関連の立案や、南洋へのハワイの水産業の進出計画、そしてマーシャル諸島における核実験開始による、それらの大幅な変更について、ハワイ州立公文書館及び米国立公文書館所蔵の準州農林行政委員会、連邦内務省、国務省、海軍関連の資料収集、分析に加え、ハワイの日系水産業界関係者への聞き取り調査を通して実証的に解

明した。

このように本研究では、主にアメリカ国立公文書館やハワイ州立公文書館、ハワイ大学ハミルトン図書館が所蔵する一次資料の収集、及び、日本、ハワイの水産業関係者が所蔵する一次資料収集をもとに研究を進めた。一次資料にはアメリカ連邦政府、大統領府、ハワイ準州政府の公文書、1910年から20年にかけてハワイを中心に展開したPan Pacific Unionなどの団体、水産業関連企業の一次資料を含む。さらにこれらを補完するため二次資料の収集をハワイ大学図書館などで行った。またハワイへの漁業移民を多く輩出した山口県周防大島町や、沖縄県うるま市漁業協同組合関係者への聞き取り調査も行った。

#### 4 . 研究成果

研究成果は単行本の刊行や学术论文の発行、学会や国際シンポジウムでの研究報告として発表した。さらに一般向けの講演やシンポジウムへの登壇、新聞記事などの取材対応を通して、研究成果の一般への還元を図った。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 小川真和子	4. 巻 31
2. 論文標題 「元年者」とハワイ - ハワイにおける日本人移民の始まりとその後 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館言語文化研究	6. 最初と最後の頁 3-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 2件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 小川真和子
2. 発表標題 日本人移民の始まりとその後 周防大島を中心に
3. 学会等名 山口学研究 シンポジウム&映画祭「人の移動が創る世界」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Manako Ogawa
2. 発表標題 The Collaboration and Confrontation between Hawaii and Washington D.C. during the Mid-Twentieth Century over Japanese Sampan Fishing and the Exploitation of Nan'yo
3. 学会等名 Oceanic Japan: Environmental Histories of the Archipelago and the Sea（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Mananko Ogawa
2. 発表標題 Tuna, Fishing, or Nuclear Testing: The Early Cold War Dialogue over the Exploitation of the Central Pacific
3. 学会等名 Practicing Power in the Global Asia-Pacific: Environments, Migrants and Womanhood, Sophia Symposium 2018（国際学会）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 小川真和子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 塙書房	5. 総ページ数 234
3. 書名 海をめぐる対話 ハワイと日本 水産業からのアプローチ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------